



学校だより

平成31年度 創刊号

平成31年4月8日発行

東京都立王子特別支援学校長

下島 啓道

校長 下島 啓道

春の日差しが心地よい暖かさに感じられる季節となりました。平成の時代から令和の時代に改元となるまさにその年に、4月1日をもって王子特別支援学校（高等部）と王子第二特別支援学校（小・中学部）が改編され、小学部、中学部、高等部を設置する知的障害特別支援学校となりました。学校名は王子特別支援学校を継承いたします。児童・生徒数は小学部164名、中学部84名、高等部193名で、学級数は80学級です。改編のために、これまでご協力いただいた保護者の皆さま、地域の皆さまに感謝申し上げます。そして何より、ご入学、ご進級おめでとうございます。

王子特別支援学校は、長い歴史の中で何回か改編されております。昭和40年の開校の時は中学部のみが設置されました。翌年に小学部と高等部が設置され、当時は小学部、中学部、高等部の学校でした。その後昭和50年に王子第二特別支援学校開校により小学部が移管され、平成2年には中学部が移管されました。様々な事情の中での変化ですが、時を経て元の形に戻ったということは、本来目指していた形になったのではないかと思います。こうした理由から、今年度の入学式は、以前の回数から継続する形で小学部が第10回、中学部は第26回としました。

新しい王子特別支援学校12年間にわたる教育の重要なテーマの一つは、新しい職種の進路先開拓とそれに対応するキャリア教育の見直しです。本校の製造業への就職者の割合は、昭和59年には90%でしたが、平成7年には30%となり、平成30年には0.5%に減少しています。新しい時代に適応できるキャリア教育を地域と共に進める必要があります。二つ目は、中・重度生徒の企業就労を進めることです。共生社会が深化していく中で、どの生徒も希望の進路先に就労し、地域で生きていくための教育を小学部段階から進める必要があります。三つ目は、豊かな人間関係を築く教育を進めることです。20世紀のアメリカの社会学者デイヴィッド・リースマンは70年ほど前に産業が発展して世の中が豊かになり便利になると、人間関係が薄れ人々は孤独になると指摘しています。友人や社会とのつながりの中で豊かに生きるための教育が必要です。

さて、社会が変化しても、いつの時代も変わらないのは保護者の皆さまや関係者の「思い」や「願い」です。今回、校章とは別にシンボルマークとしてスクラムマークを制定しました。新しい校歌の中にも「ひとつになって」の歌詞を入れました。それは、子どもを中心に保護者、学校、地域が、「思い」や「願い」を実現するためにスクラムを組みひとつになって、難題に立ち向かいたいと願ったからです。本校の更なる発展のために、知恵を集め次の段階に進めて参りたいと思います。

新たな時代に向かって、今後とも保護者の皆さま、地域の皆さま、関係諸機関の皆さまのご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

